

## 第18回全国棚田(千枚田)サミット開催状況

### ■19日 開会式・オープニング(山都町営体育館)

10月19日(金)～20日(土)のサミットは、好天に恵まれ、全国から棚田ファン約1300名が参加し、開催されました。

オープニングでは、矢部小学校の「棚田へ行こう」の大合唱と、熊本県PRマスコットキャラクター“くまモン”のサプライズ登場で、会場は一気に盛り上がりました。

小学生とくまモンによる、くまモン体操は心和むステージとなりました。

開会式は、山都町営体育館で行われ、衆議院議員の園田博之様、坂本哲志様をはじめ、農林水産省及び熊本県議会などから、多くのご来賓の方にお越しいただきました。

連絡協議会の笠松会長は、棚田を保全するためには中山間地域に対する各種法制度の整備等が、必要であることを強く要望されており、今回出席の国会議員の先生方にも、力強い支援を訴えられていました。



### ■19日 基調講演



基調講演は、吉村豊雄熊本大学教授から「棚田の歴史をさかのぼる～白糸台地の棚田から見えてきたもの～」をテーマに、国の重要文化的景観に選定された白糸台地の歴史について、ご講演いただきました。

白糸台地は長い古田の段階、幕末からの新田、戦後の段階、そして今日の色々な自然環境との共生関係が認められて、重要文化的景観に選定されました。

そこに到るまでの歩みについて、深く研究されている吉村教授の講演は、参加者を引きつける興味深い内容でした。



### ■19日 事例発表

事例発表は、白糸第一自治振興区及び菅地域振興会の2地区から、棚田を保全する取組について発表されました。



白糸第一自治振興区からは、下田美鈴女性部長から「文化的景観と地域づくり」をテーマに、女性からの観点による地域づくりの取組みや、高齢化していく山間地での棚田保全、それから今回のサミットのテーマである「子供たちに残そう地域の宝」その意味についての思いを力強く発表していただきました。



菅地域振興会からは、渡辺正弘振興会会長から「～自主的なむらづくりの実践～山里のやすらぎの提案」をテーマに発表されました。菅地域は、深い渓谷で町の中心部から分断され、「陸の孤島」と呼ばれた時期がありました。しかし、行政に頼らない自主的な地域活動が、鮎の瀬大橋の建設に繋がり、棚田オーナー、縁側カフェ、里山レストランの取組みに発展して行きました。「自分たちの地域は自分たちの力で」の振興会活動の基本姿勢が、今日の棚田保全に繋がっています。

## ■19日 分科会

基調講演、事例発表の後、昼食を挟み4つの分科会が各会場に分かれて行われました。

### ◇第1分科会(会場:国民宿舎通潤山荘)

テーマ「地域が守る棚田の保全と活用」

コーディネーター

熊本県水俣市「愛林館」館長 沢畑 亨

サブコーディネーター

熊本大学文学部教授 徳野貞雄

話題提供者

中園俊之(九州自然環境研究所長)

原田利一(峰地区棚田農家)

野口慎吾(熊本県有機農業研究会所属)

堀 良輝(菅地区棚田オーナー)

「会場に集まった方々がお帰りになって、少しでも元気になり、また明日から頑張ろう」という、沢畑館長のねらいのもと、鳥獣害が多発している中山間地域の農家の現状を見つめ、棚田の保全を誰が担い手になり、行うのか議論されました。

会場からも活発な意見が出され、参加者の棚田保全にかける思いが、伝わりました。



### ◇第2分科会(会場:矢部保険福祉センター千寿苑)

テーマ「棚田が育み続ける自然と機能」

コーディネーター

農と自然の研究所代表 宇根 豊

話題提供者

藤吉勇治(矢部郷自然観察会代表・清和小学校長)

鬼倉徳雄(九州大学大学院農学研究室)

渡辺克也(白糸自治振興会環境保全部会事務局長)



棚田の多面的機能のうちの生物多様性について皆様と一緒に考えて欲しいと、A:生き物が500種類だが、その田の百姓は全く無関心 B:生き物は100種類だが、その田の持ち主の百姓はどうして少ないのかと心配している。どちらの田んぼがいいのか？ という宇根代表の会場への投げかけで、分科会は始まりました。

話題提供者や、会場からも田んぼに生息する、動植物との係わり、保全について活発な意見が出され、議論されました。

最後に、田んぼとその周辺の畦等には動物と植物で5668種類いる。田んぼの風景や生き物に注ぐまなざし、生き物の名前を呼ぶ情愛を子どもと取り戻し伝えていく。それが生物多様性に、つながるメッセージではないかと、締めくくられました。



### ◇第3分科会(会場:山都町立図書館ホール)

テーマ「棚田景観を生かした持続可能な地域づくり」

～文化的景観の保全と地域の未来～

コーディネーター

熊本大学准教授「政策創造研究教育センター」 田中 尚人  
話題提供者

長井 勲(熊本県地域おこしマイスター)

新開晴美(上勝町教育委員会局長補佐)

本田陽一(元通潤地区土地改良区理事長)

中村豊光(棚田サミット白糸第一地区実行委員会副会長)



前半1時間を使って、通潤橋及び周辺を見学して分科会へ入りました。今回のテーマ「地域へ残そう」という部分に沿い、矢部高校1年生にも現場に同行していただきました。

事例報告の中で、「棚田は地域の宝物」、文化的景観に選ばれたとってすごいことが起こる訳ではない。それをきっかけに、地域の方々がどういう地域づくりができるのか？という課題を話題提供者とともに、議論されました。



#### ◇第4分科会(会場:山都町営体育館)

テーマ「棚田を未来に引き継ぐ主体と方法」

～棚田・地域からの発信～

コーディネーター

元熊本県立大学環境共生学部教授 中島熙八郎

話題提供者

柘田耕一(NPO法人「地球緑の会」事務局長)

勝目 豊(「村丸ごと生活博物館」頭石代表)

草野昭治(白糸第一自治振興会会長)

高森信之(中山間地域等直接支払峰集落協定代表)

菅純一郎(菅棚田オーナー 菅里山レストラン代表)



第4分科会では、棚田という日本が誇る存在をどのように引き継いで行くのか、山都町で実際に棚田と格闘しながら生きてこられた方々、それから、将来どうしようと考え取組まれている方々や支援しようとしている方々の取組みについて、議論を進められました。

厳しい自然条件の中で、農業や林業をやっている方々が、食料や環境を守っていることを、もっともっと外にアピールしていくことが重要であることを、話題提供者の方々が自身の活動をとおして発表されていました。



#### ◇首長会議(会場:山都町中央公民館)

テーマ「担い手の確保」

コーディネーター

早稲田大学名誉教授 棚田学会会長 中島峰広



首長会議は、中島峰広棚田学会会長を座長に「担い手の確保」をテーマに議論が交わされました。農林水産省中山間地域課からの参加もあり、中山間地域での農業の現状や、農業後継者の確保等課題について、またその解決策を見いだすための取組みについて、活発な意見が交わされました。

中でも、人・農地プランや地域おこし協力隊等の国の施策を上手に使う、担い手不足を解決する方策や、中山間地域等直接支払制度の拡充などそれぞれの自治体が取組みべき方策について議論されました。

## ◇全体交流会(会場:山都町営体育館)

全体交流会は、矢響太鼓の迫力ある演奏で始まりました。田植えの行程を踊りにした伝統芸能の、高畑田植え踊りは交流会の会場を盛り上げました。

地元商工会による、屋台村では山都コロッケや、しし汁などが出店され、交流会に参加された方々は、山都町の郷土料理に舌鼓をうちながらそれぞれの棚田への思いを語り、交流を深めていました。



次年度開催地、和歌山県有田川町からも、たくさんのご参加をいただきました。

サミット開催の強い意気込みを感じました。



交流会会場(メイン会場)に隣接する通潤橋からは、多くの皆様の参加を歓迎する、放水が行われました。ライトアップされた、その姿は幻想的でした。

## ■20日 現地見学会

現地見学会は、白糸、菅及び峰の3地区の棚田で行われました。

晴天にも恵まれ、先人から受け継がれた山都町の棚田の美しさに、訪れた方々の目も奪われていました。

また、現地での昼食は、地元のおもてなしの心満載で、竹の器に盛りつけられた食事や里山のお弁当、かかしのお出迎えなど、趣向を凝らした取り組みに、訪れた方々はとても満足されているようでした。



## ■20日 分科会まとめ(山都町営中央体育館)



分科会のまとめを、中島峰広棚田学会会長が行われました。各分科会でのテーマ、コーディネーター、話題提供者、そして参加者からの意見の内容をまとめられ、それぞれの分科会で活発な議論が交わされた内容を、報告されました。

## ■20日 閉会式(山都町営中央体育館)



閉会式は、今年新規就農された坂本夫妻の共同宣言から始まりました。 棚田を保全するために必要な我々の取組みや、国の制度拡充について力強い提言をされました。

その後、次期開催地の和歌山県有田川町中山町長から、第19回サミット開催のご案内のご挨拶を頂きました。

終わりに、第18回サミット実行委員長山都町甲斐町長から、沢山の方々のご参加とご協力のもと、サミットを終えることができたお礼で幕を閉じました。



今回のサミットは、「子どもたちへ残そう地域の宝～地域が育み続ける棚田の文化と景観～」をテーマに開催しました。 棚田が持つ景観が、広域的機能を果たし多種多様な生物を育む事棚田は日本の農村の原風景であり、日本の財産、資産、宝である事を再認識できたサミットであったと思います。

最後に、全国各地から多くのご参加と、関係各位のご協力のもと大盛況のうちにサミットを終えることができたことに感謝申し上げます。